

第2回検討委員会 各委員の意見

分類	意見（要約）
資料の保存・継承に関するもの	各施設とも、収蔵庫が大きな課題であり、バックヤードの充実が施設全体の充実につながると思うので、検討が必要
	各施設とも公開・展示と同程度に作品・蔵書・史料の安全な保管は重要であり、収蔵庫の安全面をまず第一に考慮すべき
	現3施設での作品・書籍・史料の現実的問題への対応を踏まえ、作品・蔵書・史料の保管に十分配慮すべき
	どの館もバックヤードが狭く劣化しており、資料も増加していて、専門職員の数も足りていない。保管庫の問題は建物が完成したら終わりではなく、開館後も継続的に検討すべきテーマである
	向こう数十年間は持ちこたえられるような収蔵スペースの確保は必須
	将来必要な収蔵スペースをアバウトに算出しても意味がないので、どのくらい不足するのか空間構成を数的に整理する必要がある
	収蔵庫拡大の必要性が挙げられたが、現在どのように試算されているのか、聞かせていただきたい
	収蔵庫について、土地面積には限りがあるため、その制限の中でできることを考えるべき。収蔵品の出し入れは物流倉庫のようにオートメーション化できると良い
	取捨選択をした上で収蔵庫のスリム化も必要
	多くの人を利用する面を重視することは大切だが、利用者や利用頻度が少ないものについてもできるだけ守っていくことが「文化」には必要
	デジタル化も必要だが、紙書籍の持つ意味も改めて確認すべき。「文化」においては「価値の蓄積」が重要であり、たとえデジタル化してデータをつくっても、「原本」の価値はそれとは別であり、「県立図書館にそれがある」という意味は大きい
	新たな書籍の購入について、全面的な電子書籍化ではなく、紙の書籍の購入を継続することが必要。紙の書籍と電子書籍とは、補完的なものであるととらえ、可能な限り二本立てで進めるべき
	図書館の滝沢コレクションは新しい施設にも引き継いで欲しい

第2回検討委員会 各委員の意見

分類	意見（要約）
資料の保存・継承に関するもの	文書館における紙ベースでの資料保存について、電子データ化することで利活用の利便性を向上させることに異論はないが、「本物」の資料を保存し、次世代へ残していく意義は大きい
	文書館では県庁文書など公文書のデジタル化を活用する一方、今後の収蔵史料の増加には、土地コストが低く地盤の安定した場所に第2、第3の書庫を整備することも検討の余地あり
	実物が重要視される美術館では、常時コレクションを入れ替えて展示するためにも収蔵庫と展示室の近接は必要
	整備地も敷地の制約があるため、将来的に収蔵庫等の増設にあたっては他館と連携して整備することも検討余地あり
資料の利活用に関するもの	美術館について、開館当時は印象派の風景画に特化していたが、何が一番栃木県としての特徴を出せるのか検討し、県出身作家の作品も展示も行えると良いのでは
	高橋洋一、濱田庄司等、郷土作家の作品を如何に面白く見せるかが重要
利便性に関するもの	作品鑑賞や館内移動などに配慮し、どのような来館者でも見やすい施設となれば良い
	拠点では、バリアフリーや震災等の災害時における安全対策など、多くの利用者が安全に利用できる施設を整備することが重要
	図書館では、手の届かない高い位置にある飾り書棚などではなく、子どもを含めた利用者の利便性を考慮した意匠とすべき
	バリアフリーの観点で、車いすやストレッチャーの利用者に配慮した館内外のスペース設計が必要
	ユニバーサルデザインは必携、弱い立場の人たちへの配慮は基本中の基本
	これからの施設建設には障害者を含めた考えが必要
	障害者の図書館利用について、とちぎ福祉プラザ内の「視聴覚障害者情報センター」などの既存の施設と適切に役割分担をすることで、多くの利用者の多様なニーズに効率的に対応することができる
	図書館のW i f i 環境の整備は重要

第2回検討委員会 各委員の意見

分類	意見（要約）
利便性に関するもの	図書館について、県民自身の調査・研究を支援するためにも、映像・マイクロフィルムの貸出が充実されると良い
	各地域の美術館や図書館には関連資料があるのか、調べることは可能かといった情報センターとしての機能もさらに充実して欲しい
	栃木県立博物館や宇都宮市美術館は、駐車場から館入口までかなりの距離があるため、特に雨天時には不便。移転後の施設は駐車場から館内入口はできるだけ近い設計になると良い
	駐車場の無料時間は、例えば基本の無料時間に加えて、内部利用すればさらに無料時間が5～6時間程度に延長されるなど、利用者の利用形態に合った検討が必要
類似施設との連携に関するもの	博物館と美術館は似たような機能だと思うので、連携ができると良いのではないかと
教育機関との連携に関するもの	中学校や高校の部活動支援として、活動の発表の場を設けたり、県レベルの大会開催を企画あるいは支援することができると良い
デジタルの利活用に関するもの （体験）	県立施設のため、近隣の人しか利用しないとならないよう、デジタル化によって遠方の県民でもweb上で資料が見られるようにすることが重要
	館外からの検索の実現や、県民誰もが登録等がなくてもデジタルアーカイブを調べられるような活用を積極的に行うべき
	利用者の利便性の実現のためにデジタルも用いつつ、現物を保存・継承することが重要
	人手不足も想定して、デジタル端末での案内も選択肢としてある
	デジタル化やICT化に対応できると良い
	デジタル化は、図書館の収蔵スペースの余裕創出に一定程度寄与すると考えられる
	有限な場所の中で何を残し何をデジタル化するか検討することも必要
	美術館は現物を見ることに価値があるが、図書館は情報が得られればデジタルでも良いため、デジタル化になじみが良い

第2回検討委員会 各委員の意見

分類	意見（要約）
デジタルの利活用に関するもの （体験）	公共図書館で利用できる電子書籍が少ないことや、子どもたちが実際に読むという体験の観点もあり、紙資料の提供もできる場所とすべき
	デジタルを美術教育、美術普及などに活用できる一方で、美術作品資料や図書、文書を残すといったデジタルになじまない部分もある
	デジタルアーカイブ化、デジタル情報（AIの活用、データベースの整理など）は、市町のレベルではなかなか取り組めない分野であるため、美術館や文書館と連携し、ハードとソフト両面から計画的に取り組むべき
集い・憩い・交流に関するもの	3施設独自の機能・独自に必要な場所の検討とあわせ、3施設共有の交流スペースの整備を検討してほしい
	気軽に県民誰でも利用できる開放空間を配備し、小集会や催しができるようになると良い
	多くの人が集まる場所、複数のイベントがある場所として、将来を担う子どもたちの利用も見据えて整備すべき
県民参加に関するもの	利便性と同時に、子どもたちにとって、学校と違った学び方ができる非日常の体験が得られる場所としてほしい
	子どもたちが3施設が有する専門的業務を見ることがキャリア教育にもつながる
	「文化と知」の創造拠点は、「文化と知」の総合グランドであり、色々な催しができるのではないかと。ビブリオバトル、競技カルタ、e-スポーツなどの大会開催など
県立施設の特徴に関するもの	民間の施設であると、収益を出すためにとにかく人を集める必要があるが、県立施設は県民全体に対する公共性を担保する必要がある
	既存の県有文化施設、宇都宮市外の公共施設との連携の点から、県立の美術館・図書館・文書館にふさわしい機能・役割を今後議論すべき
	必要な機能・面積に対する意見を実現するには、県有施設であるため財源とのバランスも検討が必要
	県立美術館なので、心がおだやかになるような、印象派などの作品を収集するのがふさわしいのではないかと
	県立図書館は、県民への直接サービスの提供と同時に市町図書館との協働・研究・人材育成・ネットワーク形成の拠点としての役割があり、県内他施設との協働の視点があると良い

第2回検討委員会 各委員の意見

分類	意見（要約）
<p>県立施設の特徴に関するもの</p>	<p>県立図書館として、県内でここになら蔵書があるという最後の砦としての意義がある</p>
	<p>県立図書館としては、石川県立図書館は整備にかなり費用をかけていると思うが、あれが一つの正解を出していると思う</p>
	<p>県立施設として差別化された内容で運営されることは当然だが、特に同じ地域にある宇都宮市図書館とのすみ分けが必要ではないか</p>
	<p>子どもの読書や学習支援、障害者の読書支援に係るものについては、県立図書館として独自に資料を収集する必要があるのではないか</p>
	<p>「栃木県立図書館あり方検討委員会」の検討をどう生かし、再構築するのも検討が必要</p>
	<p>県内各施設のモデルとなり、県全体の文化向上につながるとともに、県内各地がつながるための施設としてほしい</p>
	<p>魅力的で、県内外からモデルにしたいと思われる施設となると良い</p>
	<p>文化・知識・研究の拠点を発信し、県内外やインバウンドにつなげる発信力の強化が今後必要</p>
	<p>新しい拠点が「おもしろい」施設であり、特に目的がなくても、何気なく訪れてしまうような雰囲気を持つことが大切</p>
<p>目指す姿に関するもの</p>	<p>3施設に興味のない人たちも訪れ、さらにその中の数パーセントが美術館や図書館や文書館を利用することが理想</p>
	<p>各施設への来館もさることながら、楽しい、もう1回行きたい、集いたい、交流したい等目的に多くの方に来ていただき、拠点が良いところ、楽しいところと口コミで広まるような施設を目指すべき</p>
	<p>誰もがまた訪れたい施設が理想であり、子どもの興味関心を引きながら、親世代も足を運ばせることが大切</p>
	<p>来館意欲を促す拠点であってほしい</p>
	<p>「文化と知」だけでは漠然としたイメージが強い。「文化と知の殿堂」といったイメージが「知事の想い」として入っても良いのでは</p>

第2回検討委員会 各委員の意見

分類	意見（要約）
目指す姿に関するもの	<p>構想段階のコンセプトについては、良いもの、望ましいものは全てくみ取って書き込んでいくのが良いと思う。委員会の中で、各委員に大きな夢を語ってもらえるのが理想</p> <p>いくら良い施設を作っても生産性が無ければ持続はできないので、創造拠点は公共の施設という意識を越えた、数字を出せる施設であることが必要ではないか</p> <p>全国の参考事例について、既存の施設を参考にする必要はないのではないか。独自の考え方で進め、新たな要素をふんだんに盛り込んだ画期的な場所を作るべき</p> <p>本物を見せる良さを第1にしながらも、プロジェクションマッピング等の映像を活用し、足を踏み入れた途端に日頃のあれこれを忘れられる魅力的な非日常空間になると良い</p>
コンセプトの視点に関するもの	<p>利用者相互が情報交換でき「つなぐ」、「開く」が実現され、「生み出す、育む」が行われることで、明るい未来が見える</p> <p>「つなぐ」では収集作品資料の適切な保存・次世代への継承が、「開く」はユニバーサルデザインなど様々な利用者への配慮があるなど、視点は行き届いている</p> <p>新拠点も多くの人々が利用しないと意味がない。そうならないために、「開く」「つなぐ」「生み出す・育む」という考え方はとても重要</p> <p>視点「開く」に関連し、疲れしない施設、飽きさせない・退屈させない施設、気疲れしない施設がテーマとしてあると良い</p> <p>各施設とも現在も工夫して展示等を行っているが、利用者としては入りづらく、使いづらいので、バリアフリーなどの開くという視点は重要だと思う</p> <p>「開く」は、未来を強調する「開く」で良いが、③案の「生み出す・育む」に近い感じがするため、「触れる」の方が具体的な感じで伝わりやすいのではないかと</p> <p>役割の異なる3施設の実際の融合には難しい部分がある一方、デジタル空間で3施設と県民がどのような協働ができるか検討するためにも、「つなぐ」視点は良い</p> <p>視点「つなぐ」に関連し、設計者と現場の専門職員の思いを「つなぐ」、文化財や伝統を「つなぐ」、機能的な作品・蔵書・史料の出し入れへのデジタル化導入・設備投資により、働き方改革に「つなぐ」なども考えられる</p> <p>コンセプトの要素は、県民がサービスを楽しむだけでなく、自ら創り出す創造性が意識されている点が良い</p> <p>「つなぐ」は3施設が一体化するイメージによく合っているが、公共施設はすべて「つなぐ」場所であり、ありきたりなため、「集まる」はどうか</p>

第2回検討委員会 各委員の意見

分類	意見（要約）
<p>コンセプトの視点に関するもの</p>	<p>芸術を鑑賞し、図書を貸し出す以外にも、県民が交流し、何かを創り出していく「生み出す、育む」機能がこれから重要になってくる</p>
	<p>「生み出す、育む」は「創造」のことばに近く、施設全体の目的にも合っている。「生み出す」は力強い意志を感じる</p>
	<p>都道府県立で「生み出す、育む」機能を果たしている既存館はどこか知りたい</p>
	<p>視点・コンセプトは、整備段階、開館後の活動段階でも反映できるような姿勢を示すことが重要</p>
	<p>主体が施設なのか、県民なのか、県なのか、誰にするかによって、コンセプトの書きぶりも変わってくるので、検討する必要がある</p>
	<p>主語が何かによってコンセプトの動詞が変わってくるので意識すべき</p>
	<p>3点の視点については、意見の集約としてよくまとまっているが、これがそのまま基本理念になるとしたらもう少しだけ、分かりやすい言葉が良い</p>
<p>建物（建築）に関するもの</p>	<p>何かのついでに寄るような場所ではなく、この場所を目指して来るような立地だと思うので、建物自体も魅力的なものにすることが集客を考える上で重要かと思う</p>
	<p>美術館について、キュレーターのポテンシャルを引き出すような施設の設計にして欲しい</p>
	<p>美術館について、建物はそこまで懲りすぎず、公園との一体感などに注力すべき</p>
	<p>図書館について、利用形態に対応した空間分けが重要で、にぎやかなスペースと静穏性が担保されたスペースの両方が必要</p>
	<p>学生の受験勉強や、社会人のリカレント教育まで、幅広い学びへの対応が必要</p>
	<p>ゆっくり静かに読める空間や大きな文字等、乳幼児から高齢者まで様々な世代への配慮が必要</p>
	<p>県立図書館は資料を除却できないことから、永久的に蔵書など記録の蓄積をする一方、デジタル書籍の活用などにより人々が交流・創造するスペースの確保に向けたバランスをとる必要がある</p>

第2回検討委員会 各委員の意見

分類	意見（要約）
建物（諸室）に関するもの	学びの場や集いの場として、県民ギャラリーやイベントホール、屋外交流広場、視聴覚室、親子で参加できるワークショップ室等があると良い
	美術館について、現代アートのポテンシャルは高いが、展示にはスペース・天井高等の条件が求められるので、現代アートにも十分対応できる空間の準備、整備が必要
	図書資料を借りた際に勉強できたり、家族で来館した際に1日楽しめるカフェ・レストラン、外のスペースの活用など、また来たいと思わせる、コンセプトとつながる場所となれば良い
	美術館、図書館を回った際に疲れてしまうので、レストラン・カフェテリアがあると良い
	県産による食堂、レストラン、カフェテリア等、「楽しい食空間」を提供できると良い
建物の一体化（合築）に関するもの	合築・分築については、いずれにするかが機能・役割等にも反映される場合もあるので、早めに検討しても良いと思う
	3つの施設が別個の建物であったら、あまり相乗効果は得られないのではないかな。
	合築により一体となった建物の中でそれぞれの施設の持っている魅力に加え、共有スペースによる新たな魅力を生み出す方が良いのでは
	デジタル化を共同で進める等、連携事業があるため、同じ建物内の方が人材の確保や経費の面からも効率的
	レストランや売店等は共有の方が利用しやすく、学習スペース、ギャラリー、広場、ホールなどが共有であれば、イベントも広報しやすくなる。
	エントランスを別々にする、建物を別々に設置するなどでは、一体的な整備を行う意味がないのではないかな
	どこまで各施設を融合させるか議論の余地はあるが、ホールのみ共通などでは相乗効果が薄いのではないかな
	分築や一部共有等で相乗効果が上手く出ているところは少なく、各施設の利用者が各目的地に行くだけで終わってしまっている事例が多い
	美術館・図書館・文書館はそれぞれ利用者層や扱う対象も異なるため、個別の空間を有することが望ましい

第2回検討委員会 各委員の意見

分類	意見（要約）
建物の一体化（合築）に関するもの	3施設を1棟にすると個別の魅力が失われる可能性があり、合築・分築は今後十分に検討すべき
	美術館はそれ自体が作品となるため、美術館本来の楽しみ方を優先することも重要
	一体化した場合、3施設の個性を守り通せるのか、統合して新たな個性を作り上げることができるのか検討する必要がある
	各施設の研究・調査の成果として展示等があるが、それぞれ効果的な見せ方があり、方法も違うので、展示会場を統一して使用するのはいくつかではないか
	ハード面ではなく、ソフト面できめ細やかに連携していることが大切。建物を全て統一するのではなく、独自性を生かしながら、中身が繋がっているほうが、飽きが来ないように思う
	各施設は単独の出入口・搬入口を持っていて、ホールや燻蒸施設、交流スペース等が共有されていれば、一体化による効率化とサービスの向上が図られると思う
	美術館は静かに鑑賞するイメージだが、図書館は、近年、ある程度ガヤガヤした雰囲気は許容するのが主流となっているので、音のすみ分けも考慮する必要がある
敷地・周辺環境に関するもの	緑地空間、公園的要素等を持つ、地域に開放された施設として、周辺住民が気軽に訪れることができ、県民に愛される施設になると良い
	館外では、樹木の活用や屋外建築のあり方も1つの考え方として検討できると良い
	体育館跡地の樹木は一部でも良いので記念樹という形で残しても良いのではないかと
	整備地にある樹木は、可能であれば残してほしい
	旧日光街道への出入口の拡幅、日光街道の道路拡幅、バックヤード出入口の複数設置等が必要と考えられるので、県警や宇都宮市と連携して、信号整備などにも配慮して検討すべき
管理運営に関するもの	運営組織は一本化して、研究組織を別に設けるなど方法は色々ある
	学芸員とはまた異なる文化や芸術と人をつなぐ存在として、アートコミュニケーターや、トータルでマネジメントしていく演出家のような存在も必要

第2回検討委員会 各委員の意見

分類	意見（要約）
誘客・周遊促進に関するもの	展示内容でタイムリーな人物、事物を取り上げると入館者の興味が増加し高評価につながる
	企画展の内容も、各世代が興味関心をもつようなものを戦略的に入れて欲しい
	美術館で入館者が多くなるのは、東京等から作品を借りた企画展かと思うが、栃木ならではのものも重要。栃木に関連するものを上手く連携させ、県民も栃木のことをもっと知ることができる展示などができると良いのではないか
	美術館に行くと、一番人が集まっているのはミュージアムショップであり、美術館を見学しなくても購入できるような工夫してほしい。オリジナルグッズもよく検討し、栃木でしか購入できないグッズを開発してほしい
	美術館等と他観光地とのセットメニューを考えられれば良い
	宇都宮には文化・芸術を担う多くの施設・機関があるため、拠点栃木県の文化・芸術振興のハブとして地域とつながれるようにしたり、「足を運んでみたいエリア」として市場に提供できるようにすることで、生産性の高い理想の拠点ができ上がるのではないか
	大谷や宇都宮中心市街地にも行ける立地なので、街を巡れるような仕組みが作れると良いのではないか
	ここを起点にして、日光や大谷などに回遊できるような施設になると良い
	海外向けの発信を積極的に行い、日光に来る海外の方達が日光街道をバスで下って新拠点を經由して帰るなどの誘導ができると良い
現場との連携に関するもの	現場の方をはじめ多種多様な方の意見を十分に取り入れていくべき
	拠点の整備にあたっては、現場職員の声を聞いて進めるべき
	設計段階から各施設の実運営に携わる職員としっかり連携を取り、現場の声を聞く仕組みも必要
	現県立美術館は意匠と実業務のやりやすさに乖離があるため、意匠も重要である一方、現場の意見を吸い上げる必要あり
	コンペ等で芸術性の高い意匠が採用されると、実際には運営部分でやりにくいこともあるため、現場の意見を聞くべき

第2回検討委員会 各委員の意見

分類	意見（要約）
現場との連携に関するもの	外側から見た良い意匠と、中側での運用側の工夫・苦勞を勘案し、ぜひ現場の意見を聞き、より高い効果を導く整備が必要
	集客力を有し観覧料収入が期待できるような施設を検討する場合、現場の声も大事にしつつ、一定の意匠への配慮は必要
	3施設の運営に関わる職員と一緒に議論し、拠点を整備するにあたってどのような施設にしたいかを示してほしい
	設立当初の想いは引き継いで欲しい。今の美術館にはそれを感じられない。学芸員個人の意見に基づく美術館にしてはいけない
WSに関するもの	参加した学生から、楽しく、勉強にもなったので、また参加したいという声があった。今回参加できなかった学生も、何らかの形で整備に関わりたいという意向がある
	整備構想の段階から参加できれば、自分事として愛着も沸き、開館後も長く利用するようになると思う。学生の勉強としても有用
	ワークショップでの利用者の生の声を検討委員会で紹介・掲示して反映していくのはどうか
一体的な整備に関するもの	検討委員会として一体化しないメリットと一体化するメリットを比較し、後者のメリットが前者のメリットを上回れば一体化すると結論を導き出すべき
	3施設の一体化に加え、市・町の類似施設と一体整備する場合に得られる集客等の相乗効果も検討する必要があると思われる
	文書館と図書館の親和性は高いと思うが、美術館まで一体的に整備しなければならない必要性があるのか
	美術館、図書館、文書館は相性が良く、一体化により、ある施設の来館者がより深く調べ、知りたい場合に他施設に行くといった相乗効果が得られる
	一体化整備には全く異議がない
	一体化しないメリットについては考えられない
	相互利用などさまざまな相乗効果が期待できるため、ぜひ一体的整備を進めてもらいたい

第2回検討委員会 各委員の意見

分類	意見（要約）
一体的な整備に関するもの	他施設の利用者が各施設を相互利用できることから、一体的整備が良い
	各施設の利用者が別の館にも訪れる、3施設の連携による新たな取組が生まれるなど、様々な相乗効果が期待できるため、ぜひ一体的な整備を進めてほしい
	一体化しない場合、コストの削減や駐車場の共通化など一体化することにより得られるメリットが失われる
	一体化により、美術館にある美術作品資料の調査を図書館で行う場合の利便性が向上され良い効果生まれる
	扱う史料が専門的で、ふらっと来にくい施設である文書館が、今後地域に根付いて県民の期待にこたえていくことを考えると、一体的整備が望ましい
	文書館の業務を初めて知ったが、一体化により、文書館の重要な活動にも注目が当たることはとても大切
	文書館の性能の良い燻蒸の施設を他館と共有化することが望ましい
	仮に県内の離れた地域に個別の文化施設を整備する場合には、各施設の集客力により各地域が活性化するというメリットがあるが、近傍に個別に整備するのであれば、一体化の方がメリットが大きい
	各施設を視察して、様々な課題があり、再整備が必要なが理解できた。まとめて整備ができるのはチャンスだと思う
	一体化の中で、建築・バックヤード・研究機能を含むハード、ソフトの両面でどこまで共有化するかは今後の議論となる
	美術作品に感動したら、図書館で本を見つけられ、さらに深く調べられるようなガイダンス機能の充実など、子どもたちの学びが広がる工夫も欲しい
	県・市の施設の合築は、可能性があるのであれば、他自治体での事例はあり、検討の余地がある
	市立の施設と一体化するには、調整等のハードルが高く、相当の時間を要し現実的ではない
	博物館も一体化してはというような意見も考えられるが、人が集まりすぎて渋滞等の問題が起きることも考えられるので、あまり一つのところに集めすぎるのも良くない

第2回検討委員会 各委員の意見

分類	意見（要約）
整備地に関するもの	市外在住者の立場からは、他の用事とあわせて行ける宇都宮での整備は賛成
	栃木県・宇都宮市が「選ばれる栃木」、「選ばれる宇都宮」を目指す際、未来にどのような3施設があるかをイメージしながら場所を未来志向で選ぶことが重要
	展示室や収蔵庫等の面積を積み上げて、必要な規模を決めた上で、その施設が整備できる広さの土地を探すという順番でなければならないのではないか
	栃木県教育会館敷地への整備は難しいにしても、時間をかけてでもLRT沿線の適地で検討すべきではないか
	一体整備しなくても良いのであれば、LRT計画路線から徒歩圏の場所に分割した施設整備という案も考えられるのではないか
	駅西側LRT沿線エリア（特に県庁周辺）の活用可能性について検討すべき
	今後のLRT延伸も見据えても、これほどの広大な土地がある整備地は他にはない
	オープンで、見通しも良く、良い場所。各施設の利用だけでなく、ふらっと行ける場所にしてほしい
	複数施設を狭い敷地に高層で合築するのは、県からの説明にあるようにデメリットが大きい
	一体化する限りにおいて、整備地は県体育館跡地しかありえない
	一体的な整備であれば、LRT沿線に整備できないのは仕方が無い
	文書館の利用者の多くが一般県民であるとすれば、駐車場も確保できる県体育館跡地に整備することで良いのではないか
	便利な整備地の場所を生かし、ふさわしい拠点の在り方は何か、しっかり検討すべき

第2回検討委員会 各委員の意見

分類	意見（要約）
整備地へのアクセスに関するもの	遠方の県民でも実際に見てみたいとなったときに、アクセスが容易というのが重要
	地方から訪れる者にとって駐車場の確保は必須。そのスペースがとれない場合は、やはりシャトルバスなどの運行を検討してほしい
	車だけのアクセスでは渋滞も考えられるので、L R Tからのアクセスがしやすくなるような仕組みができると良い
	施設へのアクセスのしやすさ、特に公共交通でアクセスしやすいことが非常に重要な要素
	障害がある方は道路の横断等に支障があるので、敷地内まで路線バスが入れると良い
	桜通り十文字から整備地までの交通手段を何らか検討すべき
	当面のLRT延伸後の終点から整備地までの遊歩道・アクセス道路、市内を周遊する公共交通機関などは、街づくり計画の中で検討すべき
	トランジットセンター等について、宇都宮市等の検討状況や方向性を知りたい
その他	「とちぎのスマート+コンパクトシティ」、県民のライフスタイルも考慮した上で、全ての県立施設の理念や意義・在り方についても改めて整理し多様な視点から十分な議論を行う余地があるのではないか
	施設機能の一部を移管し活用する可能性については検討すべき
	中心市街地のあちこちにサテライト的な展示スペース、情報発信スペースを置く、サテライト収蔵庫を置くなども、検討余地があるのでは
	県内の市町立の美術館・図書館・文書館・文学館の位置・規模を整理してほしい
	青森県立美術館、山梨県立美術館などはとても良い例

第2回検討委員会 各委員の意見

分類	意見（要約）
その他	委員も他県の先進事例などを知る機会があると良い
	人を集めるだけでなく、ニーズや関心度に合わせた訴求ができ、供給が続けられるシステムが不可欠。関心度に応じた対応ができることで、多種多様な方々が関われる施設になる
	宇都宮市や、まちづくりの専門家から意見を伺う機会はあるか